

ケニア

「アフリカの人達と同じ目線を持つこと。」

これは日本という先進国で育った私たちにはとても難しいことです。

私は発展途上国を旅することが好きです。途上国に生きる人達のエネルギーを感じるのが好きだからです。

しかし今回、国際協力に関して言えばそれは、現地の方々と同じ目線を持つことなしには成り立たない、ということに気付かされたのです。

エルドレッド最後の日、私たちは土囊による道なおしを終えた現場を訪問しました。現地に適した方法で、技術を教えるという考えを肌で感じることができました。水が得られるように補修する道を選び、水の勢いを緩めるためにダムを作り、横断排水を設け、ジャンクションでの水の逃がし方を自分たちで考えたそうです。日本の感覚だけを持っていると、平らな通りやすい道を作ろうとするでしょう。しかし、少ない予算の中でできることとできないことがあります。優先順位を考えたときジャンクションでは多少道がでこぼこになっても水を逃がすことの方が大切なのです。

また別の村では、埋まってしまったカルバートを30数年後に掘り当てたということです。土砂が積もって地面があがってしまっていたのですがある住民の方が何と場所を覚えていたのです。今ではそのカルバートが機能して排水がなされています。

元々道なき道だったところを、地元の人たちと話し合いながら作っていったのだと実感することができました。

ケニアはまだまだ格差が大きく発展途上です。様々な部族が様々な悩みを抱え、でも自分たちだけではどうすることもできずに苦しんでいます。そのような人達に向上心を持たせ、打開策を考えて、毎日奮闘しておられる方々の気持ちがつながっていけばいいなと思います。私も勉強して知識を増やし、さらにそれを生かすためには英語が不可欠であると痛感しました。

今回、ケニアに住んでおられる日本人の方々とのたくさんの出会いがありました。本当に強く、芯のある素敵な方々ばかりでした。

アフリカの人達の心を教えていただきました。

夜な夜なたくさんのお話を聞かせていただきました。

スワヒリ語も教えていただきました。

ナンディフレーム、ジャカランタ……植物の名前もたくさん教えていただきました。

また、パパイヤにマンゴーにパッションフルーツ・南国の果物があんなに美味しいとは！

ケニアに導いて下さった木村先生、現地で出会って下さったみなさん、そして2週間ずっと一緒に過ごした親友片山真理子さんに感謝して報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。今後多くの方がこのスタディツアーに参加されることを願っています。